

■目標

- ・SBS カップ優勝<静岡らしく攻守で圧倒したサッカー>
- ・U-18 日本代表を倒す！そして1人でも多くの代表選手、プロ選手を静岡から
- ・将来日本代表としてワールドカップで活躍する

■チームコンセプト

- ・全員攻撃、全員守備（常にボールに関わり続ける）

■スタッフ

- ・監督：内藤康貴（浜名）、全体
- ・コーチ：二橋慶太（沼津中央）・・・静岡学園出身、映像編集、守備全般、トレーニングや試合前アップでのボールスキル
- ・Aコーチ：頼母木勇太（浜松南）・・・浜名出身、選手とのコミュニケーション、相手チーム分析、トレーニングやアップでの二橋コーチのサポート&シュート Tr.
- ・GKコーチ：大塚智紀（清水桜が丘）・・・藤枝東出身、セットプレー担当
- ・主務：松本虎次郎（浜松市立）・・・浜松南高校出身、一番大変な仕事
- ・トレーナー：松家弘卓（浜松医療学院）・・・選手管理&ケア、W-up、クールダウン

○上記のようにスタッフの役割分担をはっきりとしそれぞれに責任を持って仕事をやってもらうようにした。

■メンバー（ヤング=ヤングサッカーメンバー、国体=U-16 栃木国体メンバー、2年=2年、静岡=静岡出身）

背番号	PO	氏名	所属チーム	備考
1	GK	戸塚 陸	浜松開誠館	ヤング、静岡
12	GK	飯田 恵然	ジュビロ磐田ユース	ヤング、国体、静岡
3	CB/SB	渥美 慶大	ジュビロ磐田ユース	ヤング、国体、静岡
4	CB	村上 樹	藤枝東	
15	CB/SB	岩田 琉唯	静岡学園	ヤング
17	CB	窪田 佑介	浜松開誠館	
2	RSB	野田 裕人	静岡学園	
5	LSB	後藤 翔吾	ジュビロ磐田ユース	ヤング、国体、静岡
6	VO	森 力介	ジュビロ磐田ユース	ヤング、静岡
8	VO	矢田 龍之介	清水エスパルスユース	ヤング
16	VO	堀川 隼	静岡学園	
7	SH	土居 佑至	清水エスパルスユース	2年
11	SH	小竹 知恩	清水エスパルスユース	ヤング、国体
14	SH/CMF	加藤 佑基	静岡学園	
18	SH/FW	山崎 絢心	富士市立	2年、静岡
10	CMF/VO	川合 徳孟	ジュビロ磐田ユース	ヤング、静岡
9	FW	山本 将太	ジュビロ磐田ユース	ヤング、国体、静岡
13	FW/SH	湯山 大輔	藤枝東	ヤング、静岡

※直前のメンバー変更

SB 野田 裕人（静岡学園）怪我⇒SB 小澤 有悟（ジュビロユース）2年、静岡

CB 村上 樹（藤枝東）怪我⇒CB 桶川 陸（富士市立）静岡

■スケジュール

8月19日(月) 14:00～草薙陸上競技場にて初日のトレーニング

- これまで練習会や選考会では毎回スタッフに自己紹介をしてもらっていた。今回はスタッフだけでなく、選手にも自己紹介をもらい、自分の強み、特徴を話してもらった。この映像やコメントをモチベーションビデオにも使用した。
- ミーティングでは自己紹介+セットプレーの映像を大塚コーチに準備してもらい、名前をつけて共有した。
- 今回の招集が月曜であったので、初日は別メニュー選手が多かった。難しいところであるが、初日からトレーニングを全員で行えるように連絡をしておく必要があった。

8月20日(火) 16:00 VS 静岡大学 15分×3、静岡大学サッカーグラウンド

- 2時間前に集合して、ミーティングをしっかりとやり、この日に合流した開誠館の窪田は自己紹介。
- 静大グラウンドの日陰でのミーティングは、ホワイトボードを利用して、動きの確認とメンバー確認をした。詳細は翌日のホテルでのミーティングで行うことにした。
- 静大戦では2日前ということで、15分を3本行い、8分でメンバーを交代しながら行った。基本は1-4-2-3-1のシステムで臨むつもりであったが、3本目に、1-4-3-3も試した。
- ◆0 VS 1 静岡大学 (得) 37m 失点
- ◆ボールを持って主導権を握ろうとしていたが、予想以上に距離が遠く、連動したプレーが少なかった。VO 矢田と CMF 川合が持つとチャンスになり、そこから背後へ抜け出すシーンは何本もあった。見事な崩しからの決定機もあった。SH が外に張ってしまい、チャンスらしいチャンスは作れなかった。

8月21日(水) 初戦前日

- Tr.前にホテルでミーティングをみっちりやり、共通認識でチームになるよう求めた。
- ☆ミーティング (このミーティングでチームがプラスに向いていった…)
- 自分達静岡ユースの目指すサッカーをおさらい
 - ⇒キーワードを文字化して選手に落とし込む
 - ⇒ヤングサッカーでの良かったシーン、静大戦での良かったシーン+改善点を明確に映像で見せた。
 - ⇒◆「今のままでは…」魅力的な静岡のサッカーは難しいとはっきり告げて、
 - ⇒圧倒的な技術とゲームメイクできる川合徳孟、矢田龍之介の2人中心のチームで行くことを明言。「ボールを持ったら2人にすぐ渡せ」「2人が前向きで持ったら、背後へ走れ」を徹底した。
 - ⇒ただ、2人だけではどうにもならないということを告げ、残りの16名1人1人にフォーカス。全員の特徴を文字化して、説明し、君たちがいて静岡ユースのサッカーになると話をした。
 - ⇒このサッカーをやるためには、「運動量」が必要で、そのために「ひたむきに走る」こと、そして「チームになること」を求めた。
- Tr.は短時間ながら、きっちりとゲーム形式まで行った。桜が丘の4選手にトレーニングパートナーとして参加してもらった。ゲームでは、守備のところでは少し気になることもあったが、前日のゲームと当日のミーティングの流れもあったので、チームのスタイルを促進させるために、攻撃のところの声かけを中心にTr.を進めた。メニューは以下の通り。
 - 1.リフティング&ドリブル、パス&コントロール、4対2ボール回し …15分
 2. 10対10+2GK (69m×68m、7分×2) ※アンダー2タッチなどの制限を入れながら
 - 3.セットプレーの確認…20分
 4. PK ⇒クールダウン

8月22日(木) 15:55 KO U-18 アルゼンチン代表戦当日

☆昼食後出発前にホテルにてミーティング(内容は以下の通り)

- 「静岡ユース歴史」に触れ、子ども達の「夢、あこがれ」であり、「誇り」を持って闘ってほしいことと、「静岡」としてどんな相手であろうと負けてはいけない「責任」を果たさなくてはならないと話した。
- 1人1人に順番にユニフォームを手渡し、抱負を話してもらった。
- 主将に川合徳孟を指名。徳孟にキャプテンマークを渡し、主将として決意表明。
- 自分達のサッカーをやるためにキーワードを再度示し、「距離間」の大切さを、映像を出しながら話した。
- 1-4-3-3での守備の仕方を説明
- アルゼンチン戦のスタメンを発表(TRMとTr.からRSHは土居ではなく加藤が先発)
- アルゼンチン戦のサブ(⇒言い方をゲームチェンジャーに)を発表
- アルゼンチンのパターン(前日練習から)を伝え、その対策を共有
- スタメン1人1人に具体的な役割を伝える
- ゲームチェンジャー1人1人の具体的な役割を伝える
- サッカーを楽しもう

0 VS 1 U-18 アルゼンチン代表(得) 32m 失点

【スタメン】

山本
小竹 川合 加藤 交代なし
矢田 森
後藤 岩田 渥美 小澤
飯田

◎KOから静岡ユースが目指すプレー(グラウンダー(1タッチ)パス11本で敵陣へ)

●開始48秒で、落雷で中断⇒◆2時間の中断

◆レギュレーションが40分ハーフから30分ハーフに。

◆2試合目も考えPK戦はなし。同点の場合はお互い勝ち点1。

※2時間後、前半48秒、スローインから再開。

○前半からグラウンダーでボールを動かし、自分達が主導権を握って相手ゴールに迫った。前半は相手にシュートを打たせなかった。

◆3CBのアルゼンチンに対し、LCBがボールを持った時に、守備が上手く行っていなかったため修正

⇒RSH加藤が出た時はRSB小澤も出て行き、RCB渥美も同じようにスライドをしていき遅れないようにする

◇いつ試合が成立となるか分からないので、絶対に先に失点をしないように指示を与えたが...

◆守備時のプレスバックを怠り、カウンターからゴールを決められる

●失点後2分で雷により試合終了...先に失点をしないように注意していたが、先制を許し、一番恐れていた途中での終了。結局35分しかプレーできなかった。交代もできず...

●圧倒的に支配していた前半であったが、相手の雄一のシュートで決められ途中で試合終了。自分達のサッカーをやろうとしてよく闘っていたが、結果は負け。イレギュラーな時でも絶対に勝ち点を取らなくてはいけなかった。アルゼンチンはさすがである。終了後に、選手には、厳しい口調で次に切替えるように話をした。

8月23日(金) 18:50 KO U-18 日本代表戦当日

☆ミーティング (15:00~沼津東高校講堂)

○アルゼンチン戦の反省 (映像で確認)

○U-18 日本代表戦のスタメンを発表

⇒○前日の試合からスタメンを5人代えて、前半からハイペースで行くように伝えた

○U-18 日本代表戦のゲームチェンジャーを発表

○U-18 日本代表の特徴を伝え、その対策を共有

⇒◎相手は1-4-2-4で前からSBに対しても相手SHがプレスに来る可能性が高いので、ビルドアップ時の、4DFのSBの立ち位置をいつもより低く、内側にとるようにした(相手SHと静岡のSBとの距離を遠くして時間を作る&相手SBの背後へFWがランニングできるようにしたい)。さらに、SHはボールを持ったSBの外側を作るように求めた。そこからVO矢田・堀川、CMF川合が前向きでボールを持てるようにしたい。

○セットプレーの確認(大塚GKコーチ)

○スタメン1人1人の具体的な役割を伝える

○ゲームチェンジャー1人1人の具体的な役割を伝える

○「優勝には絶対に負けられない一戦」「絶対に負けられないライバル」「静岡のプライド、誇りを胸に」「俺たちが(静岡)が全日本だ」の言葉とともにミーティングを終えた。

0 VS 0 (PK 3 VS 5) U-18 日本代表 (得) なし

【スタメン】

湯山				※交代
小竹	川合	土居	52m	土居⇒山崎、小竹⇒加藤、湯山⇒山本
	矢田	堀川	58m	岩田⇒後藤
岩田	桶川	渥美	77m	渥美⇒窪田、川合⇒森
	戸塚			

◆KOから自分達でボールを動かそうとしたが、相手が2FW+2SHの4人で前線からボールにアタックしようとしてきた

⇒VO堀川がCB岩田・桶川の間や脇に落ちて、堀川・岩田・桶川の3CBでビルドアップをスタートし、VO矢田がその前の狭いスペースでボールを受けることで前を向き、前進していくサッカーに。

◇攻撃時は、3DFになっているので、SBは状況見て少し前の位置をとること、3DFでビルドアップを開始し、前進して相手コートには入れたら、堀川もなるべく前にポジションを取ること、

◆守備は、相手後方からの縦パスを差し込まれないように、1stDFの決定と中盤でのスライドを早くして、パスコースを消す&プレスバックを徹底していった。

◇アスリート能力では日本代表の方にはかなり分があったが、体を張って負けないことと、なるべく自分達でボールを持って、自分達のペースでサッカーをやるように心掛けた。

◎後半12分、LSH小竹に代えて加藤、FW湯山に代えて山本、RSH土居に代えて山崎絢心を投入。右サイドで山崎が相手DFを手玉にするような深いドリブルで突破し、チャンスを演出。20分には、山崎のサイド突破から矢田が決定的なシュート。

○後半36分には、左サイドの加藤がドリブルから惜しいシュートを放ったがゴールにはならず。

○逆に終盤相手にゴール前でチャンスを作られたが、GK戸塚の好プレーで何とか失点にはならず、PK戦に。

◆PK戦は選手達に蹴る順番を立候補させた。最終的には1番FW山本○、2番VO森○、3番SB後藤○、4番CB桶川✗、5番VO矢田で3対5で敗れた。10番川合は足をつり交代して蹴ることができなかった。

8月24日(土) 15:00 エコパ補助グラウンド集合 & Tr.

GK2人とCB窪田、SH山崎、FW湯山以外は軽いメニューで。

湯山には頼母木コーチ、窪田には二橋コーチ、窪田には松本コーチが直接ついてもらって、トレーニングしてもらった。

8月25日(日) U-18 韓国代表戦当日

◆グラウンドホテル掛川に前泊したが、選手も10:00に部屋を出なくてはならず、15:00からのミーティングまで居場所がなくて困った。掛川グラウンドホテル2階廊下のソファや朝食会場で時間を過ごしていたが、この時間をどう過ごすかは課題。

☆ミーティング(15:00~ミーティング会場)

○日本代表戦の反省(映像で確認)

○U-18韓国代表戦のスタメンを発表

⇒○湯山をRSHで起用し得点力に期待した。○今大会初先発の窪田には相手長身FWとのバトルでの奮起を期待することと、ボールを持ったら周りは距離を近くし、すぐに預けることを告げた。

○U-18韓国代表戦のゲームチェンジャーを発表

○U-18韓国代表の特徴を伝え、その対策を共有(映像あり...頼母木コーチ作成)

⇒【攻撃】1-4-4-2から1VOが落ちて3DFとなってスタート

ワイドでサイドは高い位置をとる

◆2FWは⑳or⑱パワーと間で受けるトップ下タイプ⑩

◆後方からロングボールのダイレクトプレー

◆ブロック外周り⇒サイドからFWへの斜めのボール

⇒◆縦パスでスイッチON ⇒フリックやスルーで突破

【守備】

●相手は1-4-4-2で外へ誘導する守備

●体格がありフィジカル勝負に優れている

◇距離が遠い...◇SHが大きな矢印でアプローチ、◇中盤の脇に大きなスペース

◇アプローチ&バックが遅い◇プレスバックの意識が低い ⇒パス&ゴールで2列目侵入

◇クロスの立ち位置✗⇒ニアヘグラウンダーのクロス

○セットプレーの確認(大塚GKコーチ)

○スタメン1人1人に具体的な役割を伝える

○ゲームチェンジャー1人1人に具体的な役割を伝える

○「意地とプライドかけた日韓戦」「魅力的なサッカーを披露できる最後の闘い」「静岡のプライド、誇りを胸に」「18+6=24名全員で勝利へ!!」の言葉とともにミーティングを終えた。

◆W-up中に豪雨で、この試合も遅れる可能性も出てきたが、何とか試合を行えることに。

⇒◇試合前のミーティングで細かな話の準備をしてきたが、気持ちの面で闘うことを強調。試合に入った。

1 VS 0 U-18 韓国代表 (得) 40+1m 加藤

【スタメン】

	山本		※交代
加藤	川合	湯山	HT 渥美⇒小澤、加藤⇒小竹、湯山⇒山崎
	矢田	森	65m 山本⇒土居
後藤	岩田	窪田	75m 飯田⇒戸塚、矢田⇒桶川
	戸塚		

◆KO から予想以上に相手にボールを持たれ、守備で対応する時間が長かった。

◇何度かゴール前でチャンスはあった。

○CB 窪田の高さは韓国相手でも十分通用したが、それ以上に、窪田から縦にパスをつけられるシーンが多くて驚いた。

○守備では上手くはまっていないシーンが多かったが、CMF 川合中心に何度も韓国ゴールに迫るシーンは見られた。

○LSH 加藤の活躍は予想以上であった。チーム初得点で今大会唯一のゴールを加藤があげた。

●VO 森が前半で怪我をし、後半開始早々に交代。VO 矢田も足が限界で 75 分に桶川に途中交代したが、その桶川が交代してすぐ怪我をして 10 人になったのも想定外であった。

○最後はチーム一丸となって勝利をおさめることができた。

■結果

3 位 勝ち点 4 1 勝 1 敗 1PK 負け

	AGR	JPN	SHI	KOR	勝点	得失	得点	失点	順位
アルゼンチン代表		0▲0 (PK6-7)	1○0	1○1 (PK5-3)	6	1	2	1	1
日本代表	0△0 (PK7-6)		0△0 (PK5-3)	0-0	5	0	0	0	2
静岡ユース	0●1	0▲0 (PK3-5)		1○0	4	0	1	1	3
韓国代表	1●1 (PK3-5)	0-0	0●1		2	-1	1	2	4

残念ながら目標の 2 つ（優勝、日本代表に勝利）はかなえることができなかった。アルゼンチン戦での途中終了、日本代表戦での PK 負けが悔やまれるが、選手達は静岡らしいサッカーを 3 試合それぞれ見せてくれたと思う。静岡の可能性を示してくれた大会であった。3 つ目の目標に向かって、選手にはこれから頑張ってもらいたい。

最後に、今大会は毎試合荒れた天候になり、運営泣かせの大会でいろいろな判断も大変だったと思います。草薙会場、愛鷹会場、エコパ会場、さらにはミーティングとして利用させてもらった沼津東高校はじめ、関係者の皆さんに本当に助けられました。本当にありがとうございました。